

出張報告書

平成30年11月19日

京西 市議会議長 様

会 派 名 無所属クラブ

代表者氏名 井上 ひろし

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 第80回全国都市問題会議
- 2 出 張 先 新潟県長岡市（アオーレ長岡）
- 3 出張期間 平成30年10月10日～10月12日
- 4 出張者氏名 無所属クラブ 井上 ひろし
- 5 てん末報告 別紙の通り

平成 30 年 11 月 19 日

第 80 回全国都市問題会議への参加に伴う復命書

報告者 無所属クラブ 井上 ひろし

日 時： 平成 30 年 10 月 11 日（木）～10 月 12 日（金）
場 所： 新潟県長岡市（アオーレ長岡） （長岡市大手通 1-4-10）
テーマ： 市民協働による公共の拠点づくり
【基調講演】 「地域分権へのまなざし」 東京大学史料編纂所教授 本郷和人 氏
【主報告】 「長岡市の市民協働」 長岡市長 磯田達昇 氏
【一般報告】 「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」
津市長 前葉泰幸 氏
「場所の時代」 建築家 東京大学教授 隈 研吾 氏
テキスト： 「市民協働による公共の拠点づくり」 別途添付

1、 基調講演の「地域分権へのまなざし」については、本郷教授（テレビによく出演している）の講演の内容のほとんどが歴史的考察による、西日本と東日本の政治基盤の成り立ち及び江戸時代における各藩の政治制度による地方活性化方策についての言及であった。

江戸時代における各藩の行政は、中央の幕府に依存しない正に地方分権のあり方であり、特色ある行政を行っていた。（例として各藩の殖産事業や藩札の発行等々）

現在は明治以降の中央政府による統一した全国一律の行政であり、富国強兵策を推し進めていた明治政府～昭和の戦後復旧に至るまでの行政手法であり、現在では行き詰まりの状態から現在政府は地方分権を唱えているものである。

しかしながら官僚統制が行き渡る日本の行政では未だ全国統一した手法がとられているため、地方が独自色を出せるような状態ではない。

という観点を述べたものであり、それではどうすれば良いのかと言う話にまではいかなかった。

2、 主報告の「長岡市の市民協働」については、長岡市長の熱い思いと市民との兼ね合いによる行政のあり方を述べた内容であったが、本市に置き換えてどうかと言うとはなはだ心もとない内容であった。

長岡市は本市と同じく中規模の譜代大名であり江戸時代の初めから明治維新まで一貫して牧野家が納めていた藩であり、その点では本市の岸和田藩と同様であるが、明治維新の際の戊辰戦争における幕府方としての立場を守り朝廷方との戦争による荒廃からの復興に当時の長岡藩の家中と領民が伴に努力した経過による復興、及び太平洋戦争時における長岡空襲での焦土の中から再度復興した歴史的な市民一体となった復興努力が根底にある。

この歴史的な観点を本市に当てはめることは少し難しいものであり、本市のように明治以降

の産業興隆で成り立っている岸和田市には他所からの働き手の流入による多くの市民と長岡市のようにほとんど他所からの流入の無い純粋な地域住民ばかりで江戸時代からの歴史的な感情を持つ市民とでは、一概に同じレベルで行政を動かすことは難しいのではないかと感じた。

3、 一般報告の「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」では津市の市長による公共施設マネジメントのあり方に関する報告であったが、これは大変参考になった。

津市長が言う、市長自らが市民との対話を率先し、また職員が提案してきた内容を市長自らが精査することの大事さ、などに共感を覚えた。

本市も現在公共施設マネジメントによる公共施設の統廃合を検討しているが、市民との対話及び職員の提案による市長自らの精査がなされていないように感じてならない。

本来市民に直結する公共施設の統廃合は、その施設を造られた時の市民からの要望があったものであり、その位置付けや歴史的な観点を無視し、単に古くなったからと言って統廃合すべきものではないと思う。

現施設を利用している市民に納得してもらえよう対話を重ね、市民の気持ちを汲取った内容で統廃合を推し進めるべきではないかと考える。

4、 一般報告の「場所の時代」についての建築家隈教授は、現在オリンピックのメインスタジアムになる国立競技場の主任設計士として有名であり、またこの会場である「アオーレ長岡」の設計士でもあるが、話の中身はアオーレ長岡の設計コンセプトの話であり、参考になるものはなかった。

所 見

今回の都市問題会議において、参考になったのは津市市長の講演であった。

ただ私自身は会場近くの旅館に泊まりその家族の方とお話をさしてもらったが、地元の旅館経営者が言うのは、「長岡市のさびれようは、かなりひどいもので駅周辺だけが賑わいを見せているように感じるが、中身は多くのホテルなどは平日客もほとんどなく、大きなマンションも夜明かりがついていないところの方が多く、人口の減少には目を覆いたくなる状態だ、新幹線が通り新しく長岡駅ができたというが、却って東京や新潟市に行きやすくなり、若い人は高校を出ると一様に東京の大学へ出ていき、郷里には帰ってこない状態である。また最近の産業構造の変革から単なる組立て工場のようなものは海外に行くため、地元出身の人まで海外への工場移転に伴い配置転換で家族ぐるみ長岡を出て行ってしまう。」

とのことであった。

ただ大学を誘致し、長岡技術大学や工業高専・長岡造形大学・長岡大学の4つの高等教育機関における将来に向けた産業立地政策は一考に値するものと思われる。

若い人の流失を防ぐには高等教育機関の設置が有効と思う。ただ本市のように大阪・京都・神戸のような大都市の周辺に位置する自治体では、新潟県の一都市である長岡市と同一に考えることは難しいであろうが、教育に力を入れることは将来の岸和田市のあり方を考えるには必要と考える。